



介護施設、住宅・店舗の設計、施工、運営を行い、デイサービスカフェを始め、世界規模で進む高齢社会の問題解決のために、サプリメントの開発にも取り組むだけでなく海外展開を開始し、果てはSDGsに貢献するために水事業も始めたMIYABI HOUSEの今をお伝えします。

MIYABI HOUSEのいま

株式会社JTB支援：

フィリピンにて開始した持続可能な給水事業について

フィリピンでのサプリメント事業を開始した際、現地の方々から聞いたのは「サプリメントを飲むための安全な水が無い」という事実でした。

実際にフィリピンの地方へ行き、若干濁った黄色い水がペットボトルに入れられ、新品のミネラルウォーターとして販売されてる事実を知りました。工場を建てても地方へ運ぶのが大変です。

ならば、物流で活躍しているコンテナにろ過システムを詰め込み、船やトラックで運べばいいと考え、株式会社JTBのご支援をいただき、2022年5月からフィリピン南部ミンダナオ島のタグム市において、安全な飲料水を地域の皆様にお届けする**コンテナ型純水製造給水事業**を開始しました。

今回設置したコンテナ型純水製造給水システムは、井戸水や水道水をろ過システムで浄化し、安全な飲料水として毎日約2,000人に供給可能です。電力は通常の電力以外にソーラーパネルも利用しています。さらに、給水事業が持続可能なものとなるよう、地域に雇用を創出し、メンテナンスノウハウの習得など 保守・運用に向けたサービスも行います。



現在、世界では安全な水が飲めないエリアで、毎年180万人の子供たちが不衛生な水が原因による疾患で亡くなっています。

株式会社MIYABI HOUSEはこの問題を解決するために、全世界において1,000台の設置を目指してまいります。

商品のご紹介

“記憶のエイジングケア” サプリメント

「SYNBAL (シンバル)」シリーズ

ガーデンアンゼリカエキス配合サプリメント「SYNBAL (シンバル)」は、ガーデンアンゼリカの生物活性成分であり、エイジングケアや、体に良い様々な作用を持つことが立証されている「クマリン」が主成分のサプリメントです。

ガーデンアンゼリカの他に、同じくエイジングケアに欠かせないフェルラ酸と、酵素パワーを持つダイゼザイムを配合し、それらを効率良く体内に送り届けるために「酸溶解遅延カプセル」でカプセル化してあります。

マイルドタイプは2022年7月に包装形態、内容及び価格を見直し、更にお求めやすくなりました。

詳しい説明をご希望されます方は、お気軽にお問い合わせください。



シンバル
ストロング

7,400円 (税込)



シンバル
マイルド

5,000円 (税込)

受注センター  TEL: 0120-332-390

介護に正解はない

私（小坂）は長年ケアマネジャーとして多くの方の支援を行ってきました。その中でも印象に残るのは、数年前に夫を亡くし一人で暮らしていた方のケースです。



長男は遠方にいますが、近隣に住む長女が週に1回程度の安否確認と買い物を手伝い、何とか生活ができる状況です。認知症の診断はありませんでしたが、意欲低下など日常生活に支障をきたすこともあり、私（ケアマネジャー）が介入することになりました。

本人からは「こまったことはないので構わないでほしい」と言われましたが、実際には環境の悪化（不衛生等）、室内での転倒、引きこもりなどがあり、このまま介入しなければさらに困難な状況になることは容易に想像がつかしました。また、家族からは同居するつもりはないから介護保険サービスで支えてほしいと希望と要望がありました。

介護の世界では「いつまでも自宅で生活出来る事が幸せである」という認識が一般的。

私も介護保険サービスの調整と専門医との連携で何とか在宅生活が維持できるように奮闘していましたので、即座に専門医の受診につなげ、（少量の抑制系薬剤）治療を開始したところ間もなくサービスを受け入れてくれるようになり、家族やサービス事業所からは一定の評価を得ました。

それから数年後、自宅での生活がいよいよ困難になり始めた頃に、ご本人から施設入所の話が出ました。

施設入所後に本人から「夫と過ごした自宅でいつまでも暮らしたいと思っていたので頑張っていました、いつも寂しかったです」「夜寝る前やデイサービスから帰って一人になった時、家族が帰った後などは不安と寂しさに一人で耐えていた」と言われました。

私はケアマネジャーとして毎月訪問し、様々な確認や生活の意向を伺ってはいましたが、「いつまでも自宅で生活出来る事が幸せだ」という固定概念から、ご本人が施設に入所する事を嫌がるのではないかと思ひ込み、一番重要な「本人の思い」を引き出せていませんでした。現在は施設で不安や寂しさもなく穏やかに暮らすことが出来ています。

多くの方が、住み慣れた自宅にいつまでもいたいということが本心であることに間違いはないのですが、人が人を支えることの難しさを思い知らされ、介護に正解はないと改めて感じました。

MIYABI HOUSE 今昔物語

その1 なぜ建築屋が介護関係の仕事をするのか

代表の小坂は建築を生業とする父に倣い、設計と建築の道へ進みました。

まずデザイナーズ住宅の設計を行う会社で設計と建築に関して6年修行をし、父の会社へ入社。

介護住宅やバリアフリーにかかわる仕事を中心に、介護系施設の設計を手伝うなかで多くの介護施設と深く関わり、介護される方、介護する方をみて「自分ならこんな施設を造れるのではないかな？」と思ひ始めます。

建物は造れる。介護に関するソフト面も勉強した。介護福祉士とケアマネジャーの資格も取得した。「その先」が見えた2年後、自分の理想とする施設を造るために独立して「MIYABI HOUSE（ミヤビハウス）」を設立。

同時に介護施設事業も開始したことで「設計事務所」と「介護施設」の2足の草鞋（わらじ）体制になり、当初の考えとは少々異なる道を歩み始めたのです。（つづく）

株式会社MIYABI HOUSE

住所：愛知県刈谷市恩田町3丁目159-15

電話：0566-93-5301

URL：<https://miyabihouse.co.jp/>

E-mail：info@miyabihouse.co.jp

編集後記

皆さまに「MIYABI HOUSE」を知っていただきたい想いから命名した「雅家新聞」第1号はいかがでしたでしょうか。

建築や介護の他、水事業で世界に貢献したく、日々活動しております。これからのMIYABI HOUSEにご期待ください。（野崎）